

中川村新しい学校新聞

第4号 / 2026.5.28

発行元 / 中川村教育委員会

企画編集 / 学校をともにつくる会

パブリックコメントの結果発表!

令和8年3月2日(令和8年3月13日の11日間、中川村の新たな学校についてのパブリックコメントを募集したところ、一般から20件(11人)、小中学生・保護者から18件(15人)という沢山のご意見をいただくことが



できました。その集まったご意見からは、大きな4つの方向性が見えてきました。

1. オール中川

コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の早期設置、多

様な住民や専門家を巻き込む仕組み作りなど、村全体で子どもを育てる体制の構築を求めています。

2. ハード面よりソフト面

新しい校舎を建てることよりも既存施設をリフォーム・再利用で有効活用し、「教育の中心」という声が目立ちます。

- ・コンセプトを理解し実践できる意欲ある先生や校長先生を確保し、長く留まってもらえるような環境づくりが重要。
- ・学校だけでは無く、村の資源や伝承、地域の人材を講師として活用した、「村全体を学びの場」とすること。

3. 多様性

9年間という長い期間を同じ環境で過ごす人間関係の固定化への対策として、異学年交流やクラス替えの工夫、また、フリースクールや地域での居場所、オンライン学習などを含め、多様な学びを支える学校で

あることが求められています。自己肯定感の捉え直しとして、良いところがあるから自分を認めるだけでなく「今の自分のままでいい」と思えるような、多様な価値観を認め合う教育が望まれています。

4. 児童生徒からの要望

子どもたちからは、日々の学校生活に直結する具体的な希望が多く寄せられました。

- ・「給食の充実」統合によって出来立ての温かい給食が食べられることへの期待やデザート追加、味の維持を求める声。
- ・「施設・遊具の充実」広い廊下、体育館のボール、特定の遊具(ターザンロープや滑り台など)を残したり増やしたりして欲しいという要望。
- ・「宿題の削減」宿題を無くす、あるいは週末の宿題を無くして欲しい。
- ・「伝統の継承」西小学校のマーチングなど、これまでの各校の伝統を新しい学校でも大切にしたい。

※より詳しいパブリックコメントの結果はホームページをご覧ください。



この集まった皆さんの意見を活かして「学びの基本計画」を策定しました。今後も村の中の「学校」というだけではない建物として、広く意見を求めています。ぜひ、よく見守っていきましょう。

※学びの基本計画はホームページをご覧ください。



ところで(今さら)パブリックコメントって?

公的な機関が規則などを定める前に、その影響が及ぶ対象者などの意見を事前に聴取し、その結果を反映させることによって、よりよい行政を目指すものである。通称パブコメ。(Wikipediaより参照)

私の学校の思い出インタビュー第三回(教育次長・南田島出身)

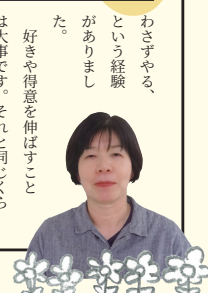
低学年のときの担任の先生がとても好きだったことを覚えていてます。

みんなでアサガオを育てたり、麦や野菜を育てて食べたりの授業がとても楽しかったです。家や学校のまわりには、田んぼや果樹園などが多く農家の家の子どもがほとんどでした。

学校は、夏休みや冬休みだけではなく、田植え休みや稲刈り休みがありました。子どもも、農作業の手伝いをしていました。やりたいかやりたくないか、ではなく有無を言とは珍しいんだって。

ここだけのこぼれ話

このような公共建築におけるパブリックコメントの募集で、中川村ほどのたくさんのコメントが集まることは珍しいんだって。(田中先生談)



編集後記

パブリックコメントから具体的な学校の姿が見えてきたように思えます。村民の希望と期待がどのようになっているのか、とても楽しみです。

※意見、ご感想ありましたら公式インスタグラム、もしくは備え付けのお便りポストにお送りください。



おれん中川で行け!

